

村山団地中央商店街の送迎自転車サービス

村山団地中央商店街 比留間誠一

■高齢化率 47%のマンモス団地

武蔵村山市の村山団地は、昭和41年に完成した総数5,260戸のマンモス団地である。昭和の時代は、商店街や団地周辺の店舗も繁盛していたが、月日が経過し、建て替えの時期を迎えた。

平成12年から、住民は順次高層住宅に移り住んでいるが、高齢化が進んでおり、平成26年の高齢化率は約47%である。そのうえ、新しい高層住宅は商店街から少し遠くになり、高齢者の買い物頻度が減少した。



<村山団地中央商店街>

■宅配サービスから送迎自転車サービスへ

そこで村山団地中央商店街は「宅配サービス」を有志で始めた。その後、武蔵村山市商工会から市全体で「宅配」を実施したらどうか、との提案があり、「まいど〜宅配」とネーミングした事業が始まった。

しかし、宅配をしていると、高齢者の希望が宅配で満たされているわけではないことが分かった。高層住宅になって、家に閉じこもっている時間が長く、商店街で品物を見ながら買い物をしたり、お店でおしゃべりをしたり、街で知り合いと出会ったりしたいけどできないでいる。

そこで店主たちは、何とかこの方たちが商店街まで足を運んで買い物をしたり、サービスを受けたりして、家まで安心して帰れることが必要と考えた。

そうした時に、ある高齢のお客様で「タクシーで商店街にみえて、美容院や食料品店・衣料品店に寄って、帰りはまたタクシーを店で呼んでもらって帰る」人がおられた。「もったいない」と感じた店主が申し出て、車いすで家までしばしば送っていた。

こうしたことから、「ベロタクシー」（三輪の乗客2人の自転車）のようなものを導入して、歩くのが少し不自由だったり、高齢だったり、買物の荷物が重

くなったりした方を家の近くまで送迎すれば、この地域にはとてもいい結果をもたらすのではないか—という考えに至った。

とはいえ、豊富に資金がある商店街ではないので、「無料送迎自転車」運行のアイデアだけは武蔵村山市商工会に提案していた。

ほどなく武蔵村山市の補助を得て、商工会が主体となって村山団地中央商店街をモデル地域として、三輪の「送迎自転車」運行システムを導入できるようになった。すぐに送迎自転車の製作を依頼し、構想が実現した。

■送迎自転車サービスの具体化

まずは、送迎自転車の製作をメーカーに依頼し、試作品として一台製作していただくことになり、平成21年9月30日に村山団地中央商店街に届いた。

また、空店舗を安く借りて「宅配のステーション」を確保、送迎希望の方の待合所と送迎依頼電話受付の拠点にし、運行終了後は自転車の車庫になるようにした。名称は「まいど～宅配センター“おかねづかステーション”」とした。

「送迎自転車」の運転手はボランティアと商店主が担当し、午前10時～午前12時と午後1時～午後3時を常時送迎の時間と設定し、必要に応じて午後5時まで対応している。(土・日・祭日・雨天は休み)

現在はボランティア運転手2人と商店主有志3人で運行していて、お客様がいないときは団地内を縦横無尽に流しながら、歩いている人に声をかけ、必要に応じて利用していただいている。

ステーションには、ボランティアで管理人が常勤。管理人は電話での送迎希望の受付や運転手の手配をするほか、宅配の集計・運転手の協力時間・利用者の人数・運行日誌などの記録や、来訪者の対応等を受け持ち、最近では週に一



<送迎自転車>



<まいど～宅配センター
“おかねづかステーション” >

回ステーションでの地場野菜の販売管理も担当していただいている。

「送迎自転車」は、平成21年10月1日から運行を開始した。開始に当たっては、パンフレットを作成・投函したり、事業の内容を説明して利用を呼び掛けた。

運良くすぐにボランティアの運転手さんがみつきり、店主も努力して徐々に利用者が増加していった。10月中旬には早々とテレビの生中継があり、歳末セールも手伝って、加速度的に事業が周知された。

■地域に根付く送迎自転車サービス

運行開始から平成26年7月末までの4年10か月の間で延べ11,450人を送迎してきた。利用者は年々増加傾向にあり、一日当たりで10人～20人の利用がある。ボランティアとともに店主が運転に参加するのはとても大切で、お客様とのコミュニケーションが図れ、生活状況を店主の目から把握できる。

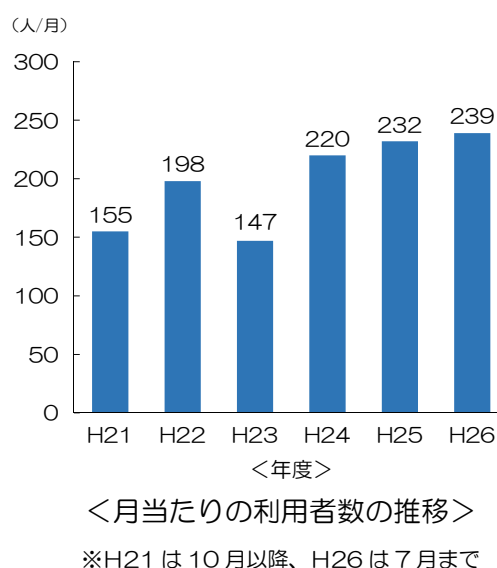
お客様の声は一律に、「とても助かる」「ありがたい」といったもので、「これがないと生活できない」とまで言われる方もいる。

村山団地中央商店街には、医院や郵便局などもあるので、買い物だけでなくこのような所へ用事で行く希望があれば、送迎しており、こうした業種の方々からもありがたいという声をいただいている。

利用者は商店街への配慮もあって、買い物は商店街を優先して下さっている。また、住民の方々の応援もあり、派手な色の送迎自転車が走っていると、それだけで地域が明るくなる。

■市と連携し、高齢者の「見守り」も

送迎自転車の事業を通して、店主の目から見てお客様の行動が心配になっ



たり、つれあいが入院したりして心配を感じた場合、市の包括支援センターに連絡する「見守り」も実施している。

このことも大切な事業の一環で、支援センターと商店会の連絡会議や認知症に関する講習会もステーションで開催した。毎日のように接している店主の目での見守りは、地域の大切な部分を担っている。

これまでのように順調に運営できれば、この事業の地域への貢献と商店街への貢献はかなり大きい。ただ、さらに発展させるためにはまだまだ課題もある。まずは送迎自転車の運転手の安定的な確保。ボランティアと店主だけでは、十分満足な時間を運行できない場合がある。

現状で、週に6時間（午前3日）くらい有償の運転手がいれば非常に楽になると思われる。あとは地域への周知が足りない部分があるので、各商店が積極的にお知らせをし、アイデアを持ち寄って利用が増加するようにしたい。

■送迎自転車の改良

利用者が増加する一方で送迎自転車自体も年々修理修復の回数が増え、導入から三年半を過ぎて新型車の検討も出始めてきた。そこで、多摩地域でも多くの製造業者が集まる武蔵村山市の製造業集積地域を中心とした技術を活かして「武蔵村山市発新送迎自転車」が開発できないものかとの要望から商工会工業部会へ打診した。

平成25年度から商業部会役員の代表数名と工業部会役員が協力し、新送迎自転車製作プロジェクト「新送迎自転車研究会議」を開始し、平成二十六年からは新送迎自転車開発をより効率的に進める為、「研究会議」から「開発会議」と名称を変更し、具体的意見を集約しながら完成を目指した。

新送迎自転車は、雨・風をしのぐカバーの設置や利用者の足場スペースの拡大などの改良を加えた。また、最大の特徴は荷台に“シルバーカー”を載せられること。利用者の大半が高齢者層であり、使い勝手の良い機能性のある新送迎自転車となっている。

平成26年10月15日に新送迎自転車完成披露式典を開催し、運用を開始した。



<新送迎自転車>



<新送迎自転車の荷台>



<送迎の様子①>



<送迎の様子②>

<新送迎自転車概要>

| | |
|---------------|-------------------|
| ベース車 | ブリジストン電動アシスト付自転車 |
| タイヤサイズ | 20×2.125 |
| シフト段数 | 3 段 |
| サドル最低地上高 | 74.5 cm |
| 電源 | リチウムイオンバッテリー8.7Ah |
| 寸法(mm)長さ/幅/高さ | 3,000/1,100/1,900 |
| 最低地上高(mm) | 90 |
| 乗車定員 | 3 名 |
| その他 | 後部荷台にはシルバーカー積載可 |

■元気な商店街の存在も必要

自転車自体で改良したい所もあるが、この事業は「送迎自転車」があって、連絡等の管理人と運転手がいて、車の保管場所があれば運営できる。運営費も節約すればさほどかからないので、同じような環境の地域があれば、是非、試みてはいかがでしょうか。

このように「送迎自転車」事業を運営しているが、地域の商店が元気で存在しなければはじまらない。商店自身が活性化のために日々努力を重ね、その基本のもとに「送迎自転車」などで地域貢献して、活性化へ相乗効果が出るようにもっていきたいものである。

【「無料送迎自転車」が地域の足に一住民の高齢化に対応、商店街がサービス—
(月刊地域づくり第263号)を加筆・修正】

<問い合わせ先>

公益法人 武蔵村山市商工会

〒208-0004 東京都武蔵村山市本町2-5-1

TEL: 042-560-1327 FAX: 042-560-6232